

# 106. シイタケ栽培に関する研究 (第3報)

—— アカシア林内におけるシイタケ原木のホダ付きについて ——

福岡県林業試験場 主 計 三 平

## 1. はじめに

シイタケ栽培の増加により、原木伏せ込み場並びにホダ場等、早期育成による庇蔭物体策が必要とされており、その一つとしてアカシア植栽による方法が考へられているが、アカシアは浅根性及び土壌水分吸収率が高いため林地の乾燥がはげしく、栽培地としての適

否が憂慮される。そこでアカシア林内でのシイタケ原木伏せ込みに関して検討を行なったのでその概要を報告する。

## 2. 試験地の概況

第1表のとおり

第1表 試験地の概況

| 試験地           | 樹種     | 樹令 | 植栽本数       | 胸高直径    | 樹高     | 枝下     | 庇蔭度 | 照度       | 方位                | 傾斜 | 標高   |
|---------------|--------|----|------------|---------|--------|--------|-----|----------|-------------------|----|------|
| 八女郡黒木町林試第1試験林 | フサアカシア | 5年 | ha当り2,000本 | 平均9.8cm | 平均9.5m | 平均3.7m | %70 | Lux1,800 | E <sup>10</sup> N | 5度 | 110m |

## 3. 試験方法

クヌギ約23年生の原木(長さ1.2m)について、昭和42年12月14日(伐木後6日目)に重量を測定しておく、さらに接種時(翌年2月2日)における重量減少率を測定し、第1表に示す試験地に鳥居伏せ、鍬伏せ、井桁積みとしヨシズ1枚をもって日覆をした。その後約1ヶ月を経過するごとに、伏せ込み方法別に原木10本について重量減少率を測定し、ホダ付き状態をしらべた。なお試験地並びに当場構内人工ホダ場の温、湿度を午前11時に測定し、月の平均値を求め比較した、雨量については当場構内の気象観測記録を引用した。

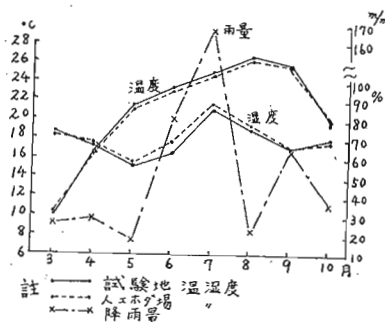
差が大きくなる傾向がみられた、8月以降は雨のためやゝ重量を増したが、この以降の減少率は比較的小さいものと考えられる。また12月頃伐木した原木は、シイタケ菌糸の蔓延期(9~10月)頃までの重量減少率は約18%内外のようである。

## 4. 試験結果

### 1) 環境について

試験地及び人工ホダ場の温、湿度の関係は第1図のとおりで、3~5月の乾燥期においても55%以上を示し、人工ホダ場より約5%内外低い程度であった。温度についての差は約0.2~0.3度高い程度で殆んど差はみられなかった。

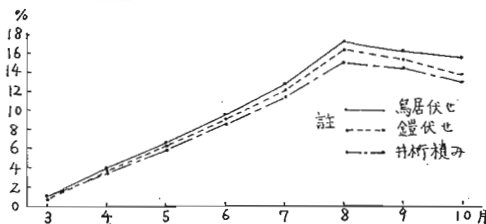
第1図 試験地の環境及び降雨量



### 2) 重量減少率について

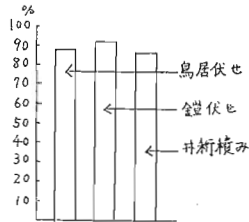
第2図に示すとおり、伏せ込み方法別間の差は、鳥居伏せと井桁積みでは僅かに(1~2%)井桁積みの方が低いことが認められたが、その他の間の差は殆んどみられなかった。また各伏せ込み間の差は、伏せ込み当初の間は殆んど差はなく、経過日数を増すごとに

第2図 伏せ込み方法別によるシイタケ原木の重量減少率



3) ホダ付きについて

9月末における剥皮調査の結果は第3図に示すとおり、各伏せ込み方法とも良好で87%以上を示し、伏せ込み方法別間には大差がなかったが、鏝伏せのホダ付きが最もよかった、一方第3図 伏せ込み方法別ホダ付き率



方害菌については各方法別共一部、ダイダイタケ、アラカビの発生がみられ、そのうちでも井桁積みの発生が多く10%程度であった。

5. むすび

以上のとおり、アカシア林内の温、湿度は人工ホダ場と大差がなく、どの伏せ込み方法を用いても伏せ込み場所として適していることが認められた、しかしな

がら林内の温、湿度は気象条件、方位、樹種樹令、植栽密度等により差があり、以上の結果もこれらの環境により差を生ずることは当然である。従ってアカシア林を伏せ込み場及びホダ場として使用する場合は4~7年生頃までか、ホダ場専用とする場合は3~4年生頃、稍頭部切断による枝張りを促進させることが望ましいと考へられる。

参考文献

- 1 シイタケ原木の乾燥程度とホダ付き、温水竹則、日高忠利、久保田鴨子 日林九支講第19号
- 2 シイタケ原木の生材含水率と重量減少率について 温水竹則、日高忠利、久保田鴨子 日林九支講第20号
- 3 人工ホダ場に関する考察 主計三平 日林九支講第20号

107. マツタケ試験について (第2報)

長崎県総合農林センター 古賀 淳

昭和42年度マツタケ試験の第2年目の状況を御報告します。

1. 試験地の設定並に施業

(1) 試験地設定 環境改善試験を行うため次表のとおり灌水、地表掻起し、庇陰調節の3施業を組み合わせて10試験区を設置した。面積は各区10m×10mの100㎡とし各区共菌環1個以上を包含させた。

1. 試験区設定表

| 試験区 | 施業種 |      |      |
|-----|-----|------|------|
|     | 灌水  | 掻き起し | 庇陰調節 |
| 1   | 0   | 0    | 0    |
| 2   | 0   | ×    | 0    |
| 3   | 0   | ×    | ×    |
| 4   | 0   | 0    | ×    |
| 5   | ×   | 0    | 0    |
| 6   | ×   | ×    | 0    |
| 7   | ×   | ×    | ×    |
| 8   | ×   | 0    | ×    |
| 9   | 羊   | 菌    | 全刈区  |
| 10  | 羊   | 菌    | 条刈区  |

(2) 施業の実施

7月17日から9月19日の間に試験地設定に引き続き施業を実施した。

- 灌水 8月18日 各区 40ℓ (菌環散布)
- 9月 7日 " 300ℓ (全面散布)
- 9月19日 " 50ℓ (菌環散布)

地表掻起し並に庇陰調節の施業は設定と共に7月中に完了した。

2. 環境調査

- ア 植生調査、試験区毎に調査し、コロラード法、トランセクト法により図示
- イ 気象調査、調査区内に自記温度計、自記地中温度計を設置し測定
- ウ 雑草調査 試験林内の雑草を採取し標本を作成した。

3. マツタケ発生調査

ア 春マツタケの調査 調査区最上端菌環 A<sub>3</sub> で5月19日1個を採取した。

この日の地中温度 max 18°C、mini 16°C、傘